

きて! みて! よかった!!

羽二重餅の古里のご案内

はぶたえもち

羽二重餅の古里は忘れかけた古里の自然を思い出させるお店です。かやぶきの門と瓦ぶきの屋根の昔なつかしい建物で、正面入り口を入りますと大きなケヤキのついたて（推定樹齢2,000年）があります、自然の山と調和した施設は、遠い昔を忍ばせてくれると思います。

さて、北陸名物本場、羽二重餅の製造工場と歴史など簡単にご案内申し上げます。羽二重餅のいわれは、延喜5年、今からおよそ1,200年前、越前福井にて絹綿が織られ始め、三代藩主松平忠昌が北の庄袖と命名し愛用されたのが始まりで、その後品質の改良が幾度か行われ、奉書袖と名を変えて現在の羽二重織りの起源をなすものとなりました。

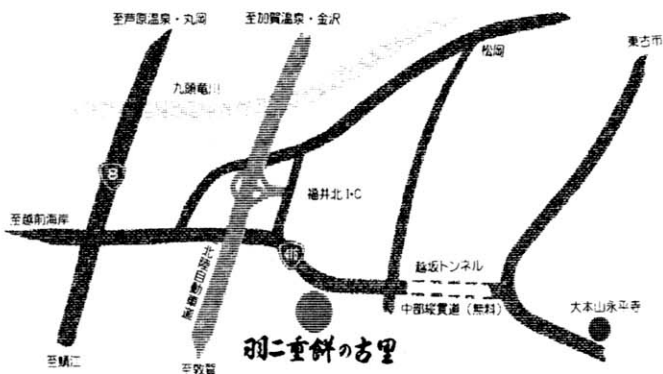
この真珠のような優雅な光沢、羽二重織りの肌触りをそのままに餅に映したのが羽二重餅の誕生です。現在お陰様で羽二重餅の古里は、羽二重餅発祥の家として沢山のお客様に親しまれております。

施設内では本場の新鮮な羽二重餅の試食が自由にでき、楽しい旅の思い出になる事と思います。門をくぐり売店を横切って奥へ進みますと、工場見学が楽しめます。製造等の説明はテープが流れており、耳を澄ましお聞きになれば羽二重餅の知識が得られるものと思います。見学の後には、売店で数々の試食をしながらご自由にショッピングをお楽しみ下さい。

さらに、売店中央の囲炉裏端では自由にお茶が飲める様になっており、いっぴくしながら店内を眺めていると、ほんのひととき昔へタイムスリップしたような懐かしい雰囲気を感じることができ、裏庭の自然の山も散策することができます。

また忘れてならない事は、福井は全国一の絹織物の産地でしたが、戦後アメリカとの沖縄返還の条件に福井の絹織物（羽二重）がアメリカに輸出規制されました。おおくの機業は織機を政府に買いあげられ、織物業界は縮小、また廃業と大変な沖縄返還の犠牲になった事は皆様も御存知と思います。その羽二重をお菓子にたくしたのが、昔も今もこれからも、全国のお客様に親しみ喜ばれ続ける福井名物羽二重餅でございます。

羽二重餅の古里では、織物の織と福井の福をとって織福という名菓と、羽二重風呂敷、羽二重餅の三代名菓、ほか色々の羽二重餅をそろえた正に羽二重餅の百貨店です。



福井北ICより車で1分

大本山永平寺御用達
羽二重餅の古里
マエダセイカ株式会社

〒910-1121 福井県吉田郡松岡町吉野35-21-1
TEL (0776) 61-2100 FAX (0776) 61-1001

www.maedaseika.co.jp/